引かれていく牛

小川未明

青空文庫

もうじきに春がくるので、日がだんだんながくなりました。晩方、子供たちが、往来で遊んでいました。孝ちゃんと、勇ちゃんと、年ちゃんは、石けりをしていたし、みつ子さんとよし子さんは、なわとびをしていました。

うす緑色の空に、頭をならべている木々のこずえは、いくらか色づいているように見えました。いろいろの木の芽が、もう出ようとしているのです。

ちょうど、このとき、あちらから黒いものが、こちらへ、のそり、のそりと歩いてきました。

「あれ、お牛よ。」と、いちばん先にみつけたよし子さんがいいました。

「どうしたんだろうね。」と、年ちゃんが、いいました。

子供たちの目は、みんなその方へそそがれました。そして、遊ぶのを忘れて、道ばたによって、通りかかる牛を見送っていたのでありました。

牛は、年をとっているように思われました。なぜなら、毛なみがうすくなって、若い時分のようにつやがなかったからです。それに、この牛は長いこと、田や、畠で働いていたか、それとも重い荷をつけた車を引いていたので、かたのあたりの毛はなくなって、皮が出ていました。これを見た子供たちは、いいあわせたように、

「かわいそうに。」と、心に思ったのです。

子供たちが、自分に同情してくれることも知らずに、牛は、のそり、のそりと歩いていきました。そして、いかにも、歩くのがいやそうに見えました。牛を引く男は、日が暮れてしまうのが気にかかるので牛を急がせようと、なわのはしで、ピシリと牛のしりをたたきました。すると、牛は、はっとして、そのときは歩みを早めたが、またいつのまにか、のそり、のそりとなるのでした。

「歩いていくのがいやなんだね。」と、勇ちゃんが、いいました。

「そうよ、きっと殺す場所へ引れていかれるのを知っているのよ。」と、よし子さんが、いいました。

「そうじゃないだろう。」と、孝ちゃんが強くうちけしました。

「いえ、いつか、ああして牛が連れていかれるのを見たとき、兄さんが、そういったわ。」と、よし子さんがいいました。

「かわいそうだな。」と、勇ちゃんと年ちゃんが、大きな声で、いっしょにさけびました。

いつしか牛の姿は、だんだん遠くなってしまいました。みんなは、牛が見えなくなるまで、その方を見送っていましたが、二度とたのしく遊ぶ気にはなれませんでした。

「ほんとうに、牛は知っているんだね。」

「それはわかるさ。そして、逃げられないということも知っているのだ。」

「明日のいまごろは、もうお肉になって、町へ出るのだな。」

「わたし、お肉たべないわ。」

「私も。」

みつ子さんとよし子さんが、そういうと、

「そんなら、くつもはけないよ。」と、勇ちゃんがいったので、みんな笑ってしまいました。

空に星が光って、人の顔が、はっきりわからなくなったので、みんなは、てんでに明るいお家へかえりました、孝ちゃんのお母さん

は、赤ちゃんをおぶって、おしごとをしていられました。二、三日前から、赤ちゃんは、気分がわるいので、お母さんは、もういく夜もろくろくねられませんでした。

「坊や、どうなの。」と、孝ちゃんがききました。

「今日は、いくらかいいようです。」と、お母さんは、おっしゃいました。

孝ちゃんは勉強がすむと、いつものように、先に床へはいりました。そして、しばらく目をあけて、

「あの牛は、どうしたろう。」と、思っていました。

ほかの子供たちも、たぶん家にかえってからも、牛のことを思っていたでしょう。

翌日、学校のつづり方の時間に、孝ちゃんは、昨日の晩方、引かれていった牛のことを書いて、

「はたらいた末に殺される牛は、なんというかわいそうなんだろう。」と、つけくわえました。

ほんとうに感じたことをあらわしたので、たいへんによくできたと先生はおほめになりました。そして、このつづり方を、先生は、みんなに読んできかされてから、

「だれでも、大きくなって、もし親不孝をするならば、お母さんをこの牛のようなめにあわせるものだ。」といわれました。

孝ちゃんは、なるほどと、先生のいわれたことを深く心に感じたのであります。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集　13」講談社
　　1977（昭和52）年11月10日第1刷発行
　　1983（昭和58）年1月19日第5刷発行
底本の親本：「僕はこれからだ」フタバ書院成光館
　　1942（昭和17）年11月
初出：「こくみん三年生」
　　1941（昭和16）年3月
※表題は底本では、「引《ひ》かれていく牛《うし》」となっています。
※初出時の表題は「引かれて行く牛」です。
入力：特定非営利活動法人はるかぜ
校正：酒井裕二
2018年10月24日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

引かれていく牛

小川未明

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/